桜萩会だより

第14号

宮崎県立小林中学校
〃 小林高等女学校
〃 小林高等学校
関東地区同窓会

編集兼発行人
永崎秀一郎
事務局
136 東京都江東区
南砂2-3-8-930
石渡方
☎ 03(615)1795

平成元年5月7日発行

第十四回 桜萩祭りに当って

会長 瀬戸山 孝一（旧中十一回）

昭和が去って、平成となりました。会員の多くの方々が、感慨一入のものがあったことと思います。私もそのうちの一人であります。前の三分の一が戦争、中の三分の一が復興、後の三分の一が繁栄と将に激動の昭和ではありました。あの高千穂の峰の麓で、夫々がその時その時の環境で夢多い青春を過したことでしょう。そして亦新たな平成の時代に同じ様に若者達があの学舎で学び育ってゆくのでしょう。

桜萩祭りも十四回を数えることとなりました。会場も、会の設営及運営も次第に定着してきたようです。当番幹事の方達の御苦労も並々ならぬものがあります。そして毎回〳〵桜萩祭りも盛り上がります。がしかし、どうしても出席者数が一五〇名を越えません。何故でしょうか。何時も一〇〇名から一五〇名の間を行ったり来たりしております。毎回出席の方も多数おります。三回に一回の方もおります。五回に一回の方もおります。幹事の方々はあの手この手と考え、何とか会員の皆さんが多数集りそして喜んで帰って戴き、よし来年も来ようと思われる様な桜萩祭りにしたいと工夫しておりますが、何かが足りないのでしょうか、もうこの位の出席者が妥当なのでしょうか。是非皆さんの御意見をお知らせ下さい。

第十四回桜萩祭りも亦、例年通り大盛会になることと思います。当番幹事も一生懸命、ボランティアで頑張っております。内容も盛り沢山です。多くの会員の方々の出席を期待しております。

皆さん会場でお会いしましょう。

第十四回桜萩祭りに御協力を

幹事長 永崎 秀一郎（高四回）

新しい年、平成元年を迎え会員の皆様にはます〳〵御健勝にて御活躍のことと拝察致します。

待望の桜萩祭りの季節が訪れました。早いもので、今年で十四回目の総会となります。総会は例年六月第一週の土曜日というのが慣例になっていますが、今年は会場の都合で、第二週の土曜日六月十日ということになりました。会場は、昨年と同じく日本倶楽部で、交通至便な場所です。多数の方の御参加を心よりお待ちしています。

出席して頂く会員数も一二〇名～一三〇名と定着して来ていますが、一〇〇名の会員数からすると、約一割でまだ〳〵少ないような気が致します。

卒年幹事を中心に旧友相集い御出席頂きたく、重ねてお願いする次第です。

さて桜萩会は会員皆様の御協力御支援により先輩後輩の縦の関係、同級生同志の横の関係で結ばれているものと思います。やはり、人生に於ける良き相談相手は先輩であり、同級生であると信じます。この意味からも桜萩会の発展が強く望まれるものです。

卒年事ごとの幹事の皆様の御苦労は大変なものですが、全くのボランティアで、御多忙の中、惜しみない協力を頂いております。今年もこの様な卒年幹事の御努力により、また新しいアイディアで盛大な桜萩祭りが企画されています。どうぞ御期待下さい。

母校の後輩達もスポーツに勉学に日夜努力しており、今や県下有数の進学校として名声をはせております。全国高校駅伝大会では、堂々第三位に入賞し、伝統の強さを見せつけました。女子バスケットボールも全国選抜大会出場を果し大活躍です。

我々も小林高校卒業生ということに大いに誇りを持ち、胸を張って歩けるというものです。今年も校長先生をお招きしております。後輩の活躍ぶりを伺うことができるでしょう。

総会まで後一ヵ月、幹事一同に絶大なる御支援御鞭撻を賜わりまして総会が盛大であるよう念じております。

最後に皆様の御健康と御多幸をお祈り致します。

ごあいさつ

小林高等学校 校長 高妻 寛

今春の定期異動で小林高等学校の校長を拝命いたしました。昭和五十四年四月から五十八年三月まで、久保校長のもとで四年間教頭をつとめ、七年ぶり再度の勤務でございます。「立志鍛錬」の校訓碑を目にして、五十六年十一月森永貞一郎先生に除幕していただいた創立六十周年記念行事のことをなつかしく思い出し、時の経過の早さに驚いております。三年後には創立七十周年を迎えることになりますので、早々にその準備にとりかからねばならないと思っています。平成元年のスタートにあたり伝統ある小林高校に帰任できたことを心から喜ぶと同時に、本校出身の川畑前校長の母校に対する熱烈な愛情と積み重ねられました業績の数々に思いをいたすとき、その後を継ぐ者として責任の重さに身のひきしまる思いがいたします。

さて、今回の異動で駅伝部の外山方圏監督が県教育委員会へ転出されました。来たる平成四年開催予定の全国高校総合体育大会宮崎大会の準備のためということで全県的な見地からやむをえないことでありました。その後継者として富永博文教諭が監督に就任しましたが、彼自身小林高校駅伝部出身であり、大学駅伝、九州一周駅伝等で活躍し、現在もフルマラソンを走る若手現役でもありますので、彼の持ち味をいかして立派にその責を果たしてくれるものと期待しております。平成元年度から女子駅伝も新設されますので、男女ペアの全国大会出場をめざしてがんばらせたいと思っているところでございます。

私としましては、本校の特色である文武の両立をはかると共に、時代の進展に遅れることのないよう教育の充実発展に心がけていきたいと思っていますので、今後とも皆様方の変らぬご支援をお願い致し、桜萩会の益々のご発展を祈念して、ごあいさつといたします。

『TOMORROW／明日』をつくって

黒木 和雄（高二回）

早いもので桜萩会の映画鑑賞会でわたしの映画を見ていただいた頃から半年は過ぎ去ったのではないでしょうか。熱心に見ていただいたうえに前売券まで買っていただいてただただうれしく恐縮しております。有難うございました。

幸い岩波ホールのロードショウもまずまずの入りでホッとしているところです。長崎、日向、宮崎、えびの、小林など九州でも上映会が持たれ、わたしもかけつけましたが、どの会場も満員でたしかな手ざわりを感じました。

映画をつくりつづけてきた（毎年連打というわけにはいけませんが）かいがあったとスタッフともども勇気づけられている昨今です。

とくにえびの市の市民センターでは一日三回の上映をやったのですが、母校の後輩の恵守君、新富君それに小林スバル座の倉石さんたちが中心になって千五百人の観客を動員してくれ盛況でした。じつに人口の一割近くの人が見てくれたわけです。映画もこのように暖い丁寧な上映活動のなかで育てられると作り手としても冥利に尽きる思いがするものです。

さて新作のことになりますが、かねてから時代劇をつくってみたいという思いがありまして、うまくことが運べば五月から七月にかけて京都で本とることができそうです。痛快で面白いものにしたいと現在シナリオ作りをやっております。何分お金のかかる映画作りなものですから保証のかきりではありませんが、うまくゆけば秋の公開封切りということになりますので、どうかご期待ください。

日本映画はテレビ、ビデオの完全苦境を背景にして作品の質で対抗してゆかなければもう生き抜けることもできません。観客の皆様も少しでも映画館へ作品を選んで足をお運びいただきたいものです。いろいろとご声援感謝しております。

『TOMORROW／明日』の主な受賞は、

八八年度

○第一回日刊スポーツ映画大賞日本映画監督賞

○報知映画賞最優秀作品賞

○キネマ旬報日本映画監督賞

○日本映画ペンクラブ日本映画第一位最優秀作品賞

○芸術選奨文部大臣賞など。

他に毎日映画コンクール美術賞、ブルーリボン、キネマ旬報主演女優賞、日本映画アカデミー賞に撮影、照明、美術、音楽がノミネートされております。

受賞の黒木監督

桜萩会のことなど

立野 輝二（旧中十七回卒）

あれは昭和三十一年頃であったろうか、西野間幸雄さん（旧中十五回卒）が小林中の卒業生名簿を作るんだと尋ねて来た。私は最高裁判所に勤めていた。西野間さんは文部省に勤めているとのことだった。その後音沙汰もなく数年が過ぎて私はいつの間にかそのことも忘れていた。昭和四十二年か三年頃西野間さんから関東地区の小林中同窓会を開くとの通知を受けて始めて出席した。その後については、この会がどうなったのか私には全く記憶がない。

昭和五十一年になって今度は瀬戸山敏彦君（旧中十八回卒）から西野間さんたちが中心となって中学と高校の合同の同窓会を開くから是非出席してくれとの手紙を受け取り、会場の京橋会館に出掛けた。これが桜萩会の始まりだった。それから私は或る時は熱心に出席し、或る時は怠けたりした。このことで心情的には桜萩会を内から知ったり、外から眺めたりすることが出来た。

西野間さんが止めて森山誠一さん（旧中十五回卒）が幹事長になった。それまでは各クラスの幹事がそれぞれ各クラスの年会費を集めて会計に提出することになっていたが、この時代に始めて年会費を会員から直接集めることになった。私はこの方法なら会員が桜萩会の存在を支持しているかどうかのバロメーターとなるだろうと思っている。それで積極的に賛成したが、具体的手続になるとサッパリ駄目で結局郵便局に勤めている井口禎之君（高校一十九回卒）などが具体化して行った。その点桜萩会にはいろんな職業の人がいて便利だ。現在は会員が何名いて、何パーセントの支持率だろうか。そんなことを思っている。

全国高校バスケットボール観戦記

深瀬 直人（高二十二回）

第19回全国高校バスケットボール選抜優勝大会が、12月の25日より、国立代々木第2体育館にて、開催され、我が母校の女子バスケットボール部も、12月20日に上京、川崎市の東芝体育館で強化合宿し本番に望んだのであります。

小林高校女子バスケットボール部は、20年前に北郷純一郎先生が、着任されて以来、県下では常勝し、全国優勝も数回し、日本の代表する選手を育ててきたチームであります。今回も北郷名監督が、用意周到にして、準備万端整ったとおっしゃっていたが、アップ不足になるのを承知のうえで全選手を開会式に入場行進させムードを盛りあげる作戦が、記念大会の為に時間がオーバーし、アップ出来ずに戦う最悪の事態になったのであります。

相手は、愛知県代表の星城高校で、このチームに勝てば、波にのり、決勝まで行くと言われていたチームだったのですが、試合が始まってみると、選手の動きが今ひとつでシュートしてもゴールにならず、前半は18点しか取れず、後半、なんとか逆転して欲しいと願っていたのですが、結局57対83という大差がつき完敗を喫したのであります。選手は一生懸命頑張り、敗れたので悔しさはないだろうが、これからのチームに勝利を期待したいものであります。

北郷先生よりお便りをいただき新チーム結成し、史上最高のつぶぞろいで、全国制覇を目指したいとのことでした。今年も全国大会出場を確信しています。桜萩会の皆さんも、ぜひ、12月25日には、代々木第2体育館で、母校のバスケット部に応援下さる様にお願い致します。

桜萩会6月祭に参加しましょう

宮崎県知事
松形 祐堯（旧中十回）
〒880 宮崎市下北方町横小路五九二八―二二
電話（〇九八五）二二―二二二〇

瀬戸山孝一（旧中十一回）
〒181 三鷹市下連雀一―二二―三
電話（〇四二二）四八―七三六五

弁護士
立野輝二（旧中十七回）
事務所
〒101 東京都千代田区神田駿河台三―一目一番地日光ビル4階
立野横山法律事務所
電話（〇三）二九一―九四六五

コンクリート用型枠
ハクリザイ製造販売
株式会社 木下商店
代表取締役 木下剛耿（高一回）
〒254 平塚市夕陽ヶ丘七―四
電話（〇四六三）二二―三二二五

スタンドバー
はまゆう
堂原幸子
河野ムツ子（高六回）
〒160 新宿区歌舞伎町一―二―七 星座館ビル地下一階（新宿区役所通り）
電話（〇三）二〇九―五三二〇

昭和の想い出

森山　誠一（旧中十五回卒）

長い昭和年間で、今なお鮮明に想い出される二つは、太平洋戦争勃発の日の興奮です。

よくわからないながらも緊迫した世相のなかで、今は亡き母が「アメリカと戦争になるのだろうか」と心配気に言う。父亡き後の母の懸念を柔げたく「戦争にはならないよ」と十八才に満たない世間知らずの私は無責任に答えたのを憶えています。しかし、日本をいじめる米英憎しの素朴な感情は日に日に高じ、皇紀二六〇〇年の歴史と大和民族悠久のために、米英を叩きのめさねばならないのだとの思いが、いやが上にも募っていました。

歴史に記された昭和十六年十二月八日、その日は「我が帝国陸海軍は、本未明、米英両国と戦闘状態に入れり」との大本営発表で始まりました。真珠湾での大戦果。宜戦布告。鳴り渡る軍艦マーチ。町は沸き、若い血は煮え立った。

赤い太陽が霧島の向うに沈み夕闇迫る頃、情報局長官（？）の大熱弁が流され大きな感動を受けました。町が寝静まっても寝むれず、小林小学校に行きました。漆黒の暗闇のなか、だだっ広い真夜中の校庭にたった一人で長い間佇んでいました。静かに瞑目すれば、体の芯でマグマが疼き、それが五体に拡がる。

皇国の岐路、民族危急存亡のとき、計らずも我が青春を投じることのできる僥幸に身震いを覚える。我が小さな生命が悠久の歴史のなかで生かされる。その機に巡り合った輪回に奮い立ってくる。血潮が沸き熱気が逆る。やがて半世紀になろうとする今日では考えられもせぬ純真さでした。

◆　◆

しかし、戦いは利あらず。昭和二十年八月十五日、千島列島で、独立小隊長として敗戦を迎えました。信じられないことでした。航空燃料用アルコールを飲みに飲み、頭を剃って坊主になりました。復員した小林には大阪鎮台が溢れていました。

◆　◆

あれから四十四年目の正月七日早朝、陸下崩御のニュースに飛び起きました。なぜか涙が溢れ、いつか慟哭していました。弔旗を掲げ皇居に急ぎました。

坂下門前で、隣の老婦人が白いハンカチを顔に当て、声を殺して泣いていました。それを面前からシャッターを押すマスコミの白けた無神経さに、蹴飛ばしたい衝動にかられました。人の奥深い心情までもネタにしようとする自己本位のコマーシャリズムは戦後のいやな一面だ。これもあれも昭和の断面です。

東京における〝宮崎の顔〟

宮崎県東京事務所　次長　黒木泰邦

桜萩会会員の皆様お元気ですか。皆様には郷里宮崎の発展のために何かとお力添えを賜っておりまして、この場をお借りしまして、厚くお礼を申し上げます。

県におきましては、松形祐堯知事を先頭に「日本一住みよい宮崎県」づくりを目指して頑張っているところでありますので、今後とも今まで以上に皆様方のご理解とご支援をお願い致します。

ところで皆様は、宮崎県の事務所が東京にあるのをご存知ですか。本日は、皆様方の今後の参考にして頂ければ幸いと思い、東京における〝宮崎の顔〟を紹介させて頂きたいと思います。

一、宮崎県東京事務所について

県政の運営に関して県と中央官庁等との事務連絡等を行うとか、情報最前線である東京のホットな情報収集等を行うために東京事務所が平河町の都道府県会館内に設置されております。職員数は、櫻井哲雄所長以下27名（うち研修生7名）です。

宮崎の黒りがいっぱいの事務所ですので、お聞きになりたいことがありましたら、左記宛にご照会頂きたいと思います。

住所　〒102　千代田区平河町二の六の三　都道府県会館5F

電話　（03）265－5951

二、宮崎県東京物産観光あっ旋所について

県の物産、観光のあっ旋、紹介並びに県産材及び農産物に関する情報収集、販路拡大等の業務を行うために東京物産観光あっ旋所が東京駅八重洲口前の国際観光会館内に設置されております。職員数は、長沼武之所長以下5名です。

県産品の展示即売も行っておりますので、県産品をお土産に贈りたいと思われる時など是非お立寄りください。

住所　〒100　千代田区丸の内一の八の三　国際観光会館3F

電話　（03）216－9587

母校通信

小林高等学校　教諭　福澤　浩（高七回卒）

一、進路状況

新年度になり、大学の進学状況が確定しました。今年度の国公立大学の合格者数は延べ203名と過年度10名（実数は140名と過年度10名）です。また、私立大学の合格者数は延べ73名と過年度5名でした。

本年度の特色として、東大、京大、一橋、慶応、早稲田、中央、明治などの難関校にも合格者を出しています。

二、教職員の異動

今年度の職員の異動で本校を去られた先生方は次の通りです。

退職…川畑安雄校長（国―2年）、永井彪（理―9年）、永田文一（体―7年）、村永砂智子（家―4年）の4先生です。

転勤…斉藤勉（国―17年）延岡西高教頭、外山方圀（体―26年）県教委、田代義博（国―6年）都城西高、八田八郎（英―8年）日向高、曳田仁美（社―6年）赤江養護、淵脇秀一郎（理―6年）延岡西高、上籠一貴（数―5年）延岡西高、安藤千穂（実教―7年）宮崎南高、以上8先生が新しい職場へ転勤されました。

またそれに伴い次の諸先生方をお迎えしました。

高麦寛校長（都城商業高）、長尾博章（体―麦高）、内野富恵（国―日南高）、前川俊洋（国―立命館文学部）、上方俊彦（社―都城商業高）、富永博文（社―高鍋農業）、永井隆（数―宮崎南高）、白坂喜和（理―飯野高）、日高隆（理―広島大理学部）、藤井猪徳（体―宮崎商業高）、山崎忠義（体―都城工業高）、東郷真由美（家―東京家政大家政学部）、陣軍陽（書―福島高）、田中史穂（農―門川農業高）、川谷真弓（実教―高千穂高）、丸野幸（事務―本庄高）。

川畑校長先生、永井先生、斉藤先生、外山先生など小林高校でご活躍いただいた先生方を送り出し、また新しい先生方をお迎えして新学期の新しい体制の下で平成元年度のスタートを切りました。

三、同窓会関係

永井先生のご退職により、白坂喜和先生（高三回卒）を新部長にお迎えし、今後渉外部の仕事を運営する事になりました。私も昨年赴任して参り不馴れなためにいろいろと行届かない点があると思われますのでなにとぞよろしくお願い申し上げます。

なお外山先生の後任には、富永先生（高35回卒）があたることになっています。また陣先生（高七回卒）もお迎えしました。

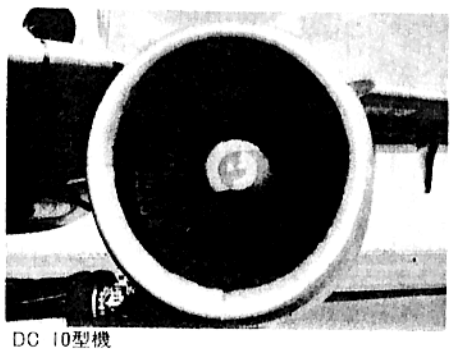
鳥衝突（BIRD STRIKE）

筆者は航空大学四回卒業生、飛行時間一六〇〇〇時間という記録をもつ日本航空ベテランパイロットである。

池井　柳二（高四回）

航空機への鳥衝突は、ここ数年増加傾向にあります。昨一年間でも鳥衝突は三六〇件発生し、この内約三分の一件はエンジンへの鳥衝突となっています。航空機への鳥衝突は、航空機の離発着時、空港周辺の低高度で起ります。羽田には大型の水鳥が群棲し、群をなして、飛立ち、離陸したばかりの航空機の航路を横切り、瞬間に数羽の鳥が昇天する事もめずらしくありません。ジャンボジェット機のエンジンの直径は、約二米七〇センチあります。この大きいエンジン四基がフル廻転で、鳥の群に突込むと、かなり大型の鳥でも、容易にエンジンに吸い込まれミンチとなり、あるものは機体に体当りして墜死ということになります。惨死した鳥も哀れですが、鳥にあたった航空機もかなりの損害を受けます。衝突をさける為に回避操作をすれば良いのですが、離陸滑走中は滑走路からハミ出すわけにも行かず、離陸速度に到達するまで操縦桿を引き上げる事も出来ず、直進あるのみです。

離陸速度で操縦桿を引き、上昇姿勢をとり、車輪を格納します。この時点でも旋回は失速の危険が多くなるので行わず、約百米の高度に達して、初期旋回を行うのが実状です。雀位の小鳥でも衝突すると機体にヘコミを作り、血痕を残します。操縦席のフロントグラスに当ると、パイロットも瞬間的に首をすくめてしまいます。後は血痕がついて、着陸するまでそのまま拭くことも出来ません。翼端等に当り、パイロットが気がつかない時もありますが、目的地到着時の外部点検時、機のヘコミや血痕等で、鳥衝突を知ることもあります。鳥衝突で一番ヤッカイなのは、エンジンへ衝突です。エンジン内部をグシャグシャにしてしまい、そのエンジンを停止し、引返しせざるを得ない時です。国内線で機体の軽い時はまだしも、長距離飛行で離陸重量一杯で離陸した時は、最大着陸重量まで燃料を捨て、機体を軽くして着陸しないと飛行機の足が壊れてしまいます。燃料を捨てる時間は機の重さによって違うが、お客様は不安と恐怖の体験をすることになります。東京発千歳行きの便が、鳥衝突により、片側二基のエンジンが駄目になり、羽田に引返した事例もあります。鳥衝突で飛行機の墜落事故はありません。機長は片側一基のエンジンを停止し、他の一基エンジンで飛行着陸する訓練、試験を半年に一回実施合格しているので、安心して下さい。このエンジンへの鳥衝突を少しでも減らそうと、色々な研究実験が行われています。その一つとして、エンジンの入口部のインレットコーンに赤黄緑の三色で塗装された飛行機があります。之は「鳥類はある特定の形、色、パターンの物体が不快な動きをする時は近付かない。」という根拠を基に実験的に行われています。一、二年間の検証が必要という事です。皆様も搭乗前にエンジンの前部をちょっと覗いてみて下さい。三色塗装の機数が増えて、鳥衝突防止に効果があったという証があればいいですね！



DC 10型機

私にとっての「カラオケ」

松田　陽子（高十七回）

現在、私はNHK文化センターと、伊藤楽器歌謡学院のカラオケ教室の講師をつとめています。カラオケ文化が日本の社会で大きな流れとして認知され、その中で仕事をしていることを喜んでいる一人です。「歌」を通して人間関係のコミュニケーションが出来る素晴らしさを感じています。「カラオケ」でただ歌が上手になるというだけでなく、一人の人間が生きる喜こびを感じ、対人関係をとりもどした例を私は実感いたして居ります。ある一人の方は脳血栓で半身不随となり命を絶つことさえ考えたとか。お友達にさそわれ教室に来られ、歌う喜こびを味わい人とのふれあいに心をなごませ、現在は教室の幹事まで引き受け頑張っていらっしゃいます。又ガンを宣告され手術後、暗い毎日を送っていた方が「カラオケ教室」にいらっしゃってからは車で海辺に行き大きな声で歌うことをおぼえ、最近は息子夫妻にも歌わせるほど元気になり、家庭内は明るい「カラオケ一家」。OLの方でカラオケに参加出来ないということだけで、仲間はずれにされ、悩んでいたのですが、教室にいらして新曲を一曲おぼえただけで、グループのアイドルどころか、リーダーになってしまった例など。社会の一部ではカラオケ騒害とケンカ、歌う順番どりになぐりあい等、イヤな話を聞くこともありますが、本当のカラオケの効用を生かすエチケットや心得を、諸に勉強する私の仕事に誇りを感じて居ります。歌手を目ざして小林から上京し、芸能界への憧れだけを望んでいた私にとって、「カラオケ」は私を社会へのボランティア精神をうえつけてくれました。私自身、歌を歌うことは大好き。悲しいとき、淋しいとき、楽しいとき、はしゃぎたいとき、すべて歌を通して心が開かれます。これからも「カラオケ」を通して人生勉強と精神文化への一助になるよう頑張りたいと思っている現在です。

NHK文化カラオケ教室

昭和六十三年度　会計報告

自昭和63年4月1日　至平成元年3月31日

収入の部		支出の部	
年会費	322,000円	総会開催費	593,490円
寄附金	195,000	幹事会費用	71,540
総会会費	644,000	会報発行費	400,850
広告代	180,000	通信費	23,395
利息	31,267	寄附金及び謝礼	110,000
絵画売上代	60,000	振込手数料	2,400
前期より繰越	568,250	交通費	21,500
		記写会補助金	22,000
		旅行補助金	20,369
		次期繰越金	734,973
合計	2,000,517	合計	2,000,517

会計　有坂久美子
会計監査　有馬　恵春

（註）準備金として　定期預金　500,000円
定額郵便貯金　500,000円

編集後記

新しい時代、平成の幕明けと共に第一回目の会報をお届けします。

いつものこと乍ら原稿集めに大変苦労しました。会員の皆様には日常茶飯事、クラス会の模様等、何でも結構ですから原稿をお寄せ下さい。

編集側としても、もっと幅広く取材等をすればよいのですが、人手不足もあって思うにまかせません。編集の経験のある方のお手伝いを切望するものです。

第十四回桜萩祭りを六月に控え第十四号会報が総会成功に役立ち、また多数の参加者により盛会であることを念じ編集のしめくくりと致します。

最後に、原稿をお寄せ頂いた方、広告掲載に御協力頂いた方に心より厚く御礼申し上げます。

編集担当
水崎　秀一郎（高四回）
石渡　浩子（旧女二十二回）

桜萩会6月祭に参加しましょう

ステンレスサッシ
アルミ板金製作施工
大洋金属工業株式会社
代表取締役　西田忠司（高五回）
〒111　東京都大田区東糀谷五―十二―七
電話（〇三）七四五―一六四一

宮崎県の若人たちによる
HIC―場
株式会社　エム・エレック
代表取締役　山下光正（高五回）
本社　〒104　東京都中央区八重洲二―六―十六　北村ビル
電話（〇三）二七二―四四〇〇
宮崎工場
宮崎県東諸県郡高岡町二七二一
電話（〇九八五）八二―二九三二

洋傘及マフラーの卸問屋
株式会社　前原光栄商店
前原裕子（高六回）（旧姓横山）
〒111　東京都台東区三筋二―十四―五
電話（〇三）八六二―五七八八

株式会社日高設計企画
代表取締役
日高省三（高二一回）
一級建築士宅地建物取引主任者
〒166　東京都杉並区高円寺北三―三―四〇五
電話（〇三）三二〇―一二六一
FAX（〇三）三二―九―九一八五

丸山印刷株式会社
株式会社マルサン
取締役社長丸山嘉夫
丸山美智子（旧姓脇元）（高四回）
東京都千代田区神田神保町二―十五
電話（〇三）二六二―〇六一四
FAX（〇三）二六二―四三二七